

日本医史学雑誌 第57巻 第2号

目 次

第112回 日本医史学会総会 演題目次

プログラム

会長講演

- 我が国の近代医学教育の源流——明治初期の公立医学校——…………… 坂井 建雄 109

特別講演

- 大学令と大正昭和期の医師養成…………… 天野 郁夫 113

シンポジウム 「我が国の医学教育の歴史をめぐって」

- 1 江戸時代の医学教育…………… 海原 亮 119
- 2 明治期におけるドイツ医学の受容と普及…………… 吉良 枝郎 120
- 3 明治期における私立医学校の医学教育…………… 志村 俊郎 121
- 4 戦時下における外地の医学教育…………… 泉 孝英 122
- 5 戦後における医学教育制度改革…………… 福島 統 123

一般演題

- 1 岩国市芦山家に所蔵される「婦人臓図」
——東京大学本, 千葉大学本との比較—— …………… 片岡 勝子 124
- 2 本多錦吉郎による美術教育の為の解剖学書について…………… 島田 和幸 125
- 3 辛亥革命までに刊行された中国語解剖学書・生理学書について
…………… 松本 秀土, 坂井 建雄 126
- 4 満州語西欧解剖学書『欽定格體全録』について…………… 渡辺 純成 127
- 5 近代日本の海外展開における第一歩としての
日本人ペスト調査団海外派遣 …………… 大山 卓昭 128
- 6 野口英世の横浜海港検疫所赴任の時期について…………… 中村 澄夫 129
- 7 井口乗海著「痘瘡及種痘論」による20世紀初頭の
各国と日本の種痘法規について …………… 渡部 幹夫 130
- 8 近代朝鮮における宣教医療と植民地医学
——その類似点と相違点について—— …………… 小田 敏花 131
- 9 衛生展覧会と中心感染説…………… 竹原 直道 132
- 10 “A” レポート及び “G” レポート (「ダグウェイ文書」) について
…………… 蒔 昭三 133
- 11 戦後占領期における性感染症
——GHQ/SCAP 文書にみる軟性下疳の流行——
…………… 田中 誠二, 杉田 聡, 丸井 英二 134
- 12 戦後沖縄の保健・医療行政 その5
——本土復帰にともなう制度の「一体化」—— …………… 杉山 章子 135

13	江戸時代の婚姻と「癩」	鈴木 則子	136
14	優生保護法における優生審査の実際にふれて	岡田 靖雄	137
15	戦前の「行旅病者救護所」	金川 英雄, 堀 みゆき	138
16	戦後精神医療史の再検討(1) ライシャワー事件の読み方	橋本 明	139
17	心臓刺激伝導系発見者・田原淳の顕彰	須磨 幸藏, 島田 宗洋, 島田 達生	140
18	長谷川泰論——済生学舎廃校宣言前後を中心に——	殿崎 正明, 唐沢 信安, 山本 鼎, 幸野 健, 志村 俊郎	141
19	長谷川泰の晩年の生活及び人生の苦悩と悟りについての手紙と詩文	唐沢 信安, 志村 俊郎, 殿崎 正明, 山本 鼎, 幸野 健	142
20	眼科手術における消毒法の変遷	園田 真也	143
21	旧鈔本『難経集注』にみえる「持」の訓について	宮川 浩也, 矢吹 杏子, 天野 陽介	144
22	『医心方提要』について	小曾戸 洋, 天野 陽介	145
23	浅田宗伯門人の研究	渡辺 浩二	146
24	『医学天正記』異本類の比較研究(第2報)	天野 陽介, 小曾戸 洋, 町 泉寿郎	147
25	『素問』の早期版本について	真柳 誠	148
26	唐代『張仲景傷寒論』の検討	楊 歆	149
27	唐代の散逸医書『古今録驗方』から見た六朝期の散逸医書『僧深方』	多田 伊織	150
28	新発見の医書『江春記抜書』と田代三喜	遠藤 次郎, 鈴木 達彦	151
29	曹炳章著『中国医学大成総目提要』について	宮川 隆弘	152
30	聿修堂の蔵書目録について	竹内 尚	153
31	中泉行正博士と研医会図書館	安部 郁子	154
32	UCSF 図書館所蔵の福井済生館文書	町 泉寿郎	155
33	北里研究所に所蔵される三木栄作成の研究資料	郭 秀 梅	156
34	「紅毛医言」の“あとがき”について	板野 俊文	157
35	18-19世紀ベトナム産肉桂の流通からみた東アジアの生薬交易	岡田 雅志, 内野 花	158
36	18, 19世紀のフランスにおける鍼灸医学の受容について	ヴィグル・マティアス	159
37	温庭筠, 李商隠疾病攷	小高 修司	160
38	明治期における「杉山真伝流百法鍼術」の成立と変遷について	大浦 宏勝, 市川 友理	161
39	秦伯未批校『医学見能』について	浦山 きか	162
40	和田東郭の腹診における表現について	大道寺慶子	163

41	医学, 数学, 物理学におけるパラダイム転換 ——特に医学へのその概念の使用の問題について—— 藤岡 彰, 藤岡 和美	164
42	イブン・ナフィス (Ibn Nafis) による肺循環の発見	藤倉 一郎 165
43	セント・バーソロミュー病院の創設と発展	柳澤 波香 166
44	近世イギリスにおける偽医者文化と演劇	遠藤 花子 167
45	ブルックリンにおける医学教育	泉 彪之助 168
46	GHQ/SCAP 文書にみる戦後日本の歯科医学教育改革	樋口 輝雄 169
47	小川鼎三『医学の歴史』を教科書とする「薬学史」講義の試み	牧 純 170
48	松本良順と近代教育 ——『養生法』の開明性と近代教育への意義——	田口喜久恵 171
49	西南戦争と大阪陸軍臨時病院	鈴木 紀子 172
50	『高く尊き看護婦の使命』(昭和8年刊) にみる 医師 二木謙三の看護観	平尾真智子 173
51	私立東京看護婦学校の設立とその動向	上坂 良子, 水田真由美, 黒田 裕子 174
52	香月牛山『老人必用養薬』(1716) にみる老人の保養観	中村 節子, 平尾真智子 175
53	ジャン・マルタン・シャルコーと神経障害性関節症	小林 晶 176
54	新島襄の持病「リウマチズム」について	布施田哲也 177
55	橋本病の歴史 ——その始まりと冠名病名「橋本病」の定着過程——	佐藤 裕 178
56	日本における静脈内注入療法の始まりから定着までの流れ	岩原 良晴 179
57	日本最初のベルリン大学医学部卒業生・佐藤進について	酒井 シヅ, ヴォルフガング・ミヒエル 180
58	ポンペ・ファン・メールデルフォールトと牛痘種痘 (第2報)	松木 明知 181
59	ポンペのオランダ語解剖学講義ノートの原典はボックの人体解剖学書と 解剖図譜である	相川 忠臣, ハルメン ボイケルス, 酒井 シヅ 182
60	フーフェラントの「医戒」と済生学舎の建学の精神について	幸野 健, 唐沢 信安, 山本 鼎, 志村 俊郎, 殿崎 正明 183
61	中国伝統医学と道教 (第31回 道蔵)	吉元 昭治 184
62	萬病萬毒論と萬病一毒論	西巻 明彦 185
63	橋南谿をめぐる考察	成瀬 勝俊 186
64	本居宣長記念館所蔵『諸疾目録回春病門次第』 ——本居宣長の医学への味岡三伯の影響——	吉川 澄美 187
65	逆子の灸——至陰と張文仲——	奥野 繁生 188

66	『啓迪集』の脈法	中川 俊之	189
67	『啓迪集』の鍼法と灸法	木場由衣登	190
68	『古今医統大全』の鍼灸について	田中利江子	191
69	『灸譜』について	鶴田 泰平	192
70	『瘡瘍經驗全書』の鍼灸	上田 善信	193
71	研医会図書館所蔵の脈学書『切脈小言』について	吉岡 広記	194
72	『医談抄』の鍼灸	寺川 華奈	195
73	『牛山活套』の婦人部について	山田 恵美	196
74	『新修本草』の薬名(項目名)について	岩間眞知子	197
75	脾肝薬王圓と『小児養育金礎』 ——京都の薬屋石田家の売薬業と育児書の頒布——	梶谷 真司	198
76	目付海防掛(蕃書調書総裁)大久保忠寛の 「病幼院創立意見」安政4年(1857)について	稲松 孝思	199
77	濃州郡上藩に於ける藩医事情	森永 正文	200
78	中島友玄の患者の通院圏	木下 浩, 中島 洋一	201
79	中島宗仙の阿蘭陀取油法について ——文政2年宗仙長崎遊学時の写本——	中島 洋一, 松村 紀明	202
80	彌性園第十二代当主 田中太一良(1873~1932)の医績について	田中 祐尾	203
81	明治17年の女子の医術開業試験受験許可について	三崎 裕子	204
82	『浮世物語』の中の身体に関わる表現	計良 吉則	205
83	ジョン・ハンターとホーム家の人々〈3世代〉	青木 國雄	206
84	橋田邦彦における「格医」	勝井 恵子	207
85	『史記』扁鵲倉公列伝の張守節注に見える引用経文	橋本 典子	208
86	『経絡正統』『引経口訣』について	山崎 陽子	209
87	『灸法口訣指南』について	橋本 史代	210
88	『(獅子流秘本)西村鍼灸秘録』について	岩田源太郎	211
89	プランゲ文庫所蔵新聞にみられる「看護」に関する広告記事の分析 ——九州の場合——	大石 杉乃	212
90	大阪の『人体問答』 ——明治8~12年刊行初等教育教科書における人体像——	月澤美代子	213
The 112th General Meeting of the Japan Society of Medical History			214
医史学関係文献目録(平成21年, 2009年)			219
投稿規定			264
編集後記			266